

# 第3回角田市学校適正規模検討委員会会議録

令和6年6月27日（木）

令和6年6月27日（木曜日）

---

令和6年6月27日（木曜日）午後7時 開 議

- 1 開 会
  - 2 あいさつ
  - 3 報 告  
(1) 第2回検討委員会会議録の内容確認について
  - 4 議 事  
(1) 学校の適正規模・適正配置に関する保護者等アンケート結果集計報告書  
(2) その他
  - 5 閉 会
- 

出 席 委 員（18人）

1 番	高 橋 輝 昭	副委員長	2 番	咲 間 豊 次	委 員
3 番	目 黒 孝	委 員	4 番	佐 藤 孝 一	委 員
5 番	今 野 正	委 員	6 番	菊 地 保 次	委 員
7 番	根 元 三安夫	委 員	8 番	吉 田 正 廣	委 員
9 番	黒 田 恒 男	委 員	10 番	横 山 康	委 員
11 番	菊 地 美樹雄	委 員	12 番	佐 藤 和 隆	委 員
13 番	武 田 浩 伸	委 員	14 番	岩 間 学	委 員
15 番	武 田 暁	委 員	17 番	横 尾 裕美子	委 員
18 番	阿 部 篤 史	委 員	19 番	山 内 明 樹	委員長

---

欠 席 委 員（1人）

16 番 鈴 木 貴 博 委 員

---

説明のため出席した者

教 育 長 永 井 哲	教 育 次 長 齋 藤 修
教育総務課長補佐 目 黒 知 子	総 務 係 長 大 野 悟
総 務 係 主 事 遠 藤 明 里	

午後7時00分 開会・開議

- ◎目黒教育総務課長補佐 皆様、本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。  
定刻となりましたので、これより第3回角田市学校適正規模検討委員会を開催いたします。
- 

あいさつ

- ◎目黒教育総務課長補佐 初めに、山内委員長より御挨拶をお願いいたします。

- ◎山内委員長 こんばんは。第3回の検討委員会に御出席いただきまして大変ありがとうございます。

挨拶ということですが、今日のこの委員会の進め方を少しお話しさせていただいて、挨拶に代えさせていただければと思っています。

本日、第3回ですね。第1回目は、まず基本構想に関する説明、情報共有の機会ということで事務局説明が主でございました。第2回は、前回、論点整理ということでさらに詳細な説明があったかと思えます。今日は前半、質問紙調査、アンケート調査の結果がまとまりましたので、まず事務局からそちらの報告をいたします。その後、質疑の時間を取りたいと考えています。

今日の後半は、前回の閉会の際、事務局から報告があったかと思うんですけれども、ここまで今日も含めて3回の話し合いを通じて、それに対する御意見を委員お一人お一人から述べていただく時間を取ればなど思っております。今日のアンケート調査の結果であるとか、前回の論点整理であるとか、そういったところを踏まえまして、それぞれの御意見、お立場からのお話をいただいた上で、さらに具体的に、次回以降、特にこのあたりのところについて先行して集中して話し合いをしていきたいというようなものがあれば、そういったものも御提案をいただければと思っております。そういったものを基に、次回、優先順位を決めまして、特にこれからまず先行して話をしていきましょと、そういったところにつなげていければと考えております。もちろん御意見いただいていく中で、質問とか質疑に当たるような内容が出てきた場合には、今日お答えできる範囲で事務局から回答はさせていただきます。ただ基本的には次回以降、改めて質疑を進めていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくをお願いいたします。

ということで、アンケート調査の報告の後にそれぞれからお話しいただきますので、そういった心積もりで御準備をお願いできればと思っています。地区の代表の方からということで、副委員長さんのところから順番にずっと行きたいと思っています。学校代表ということで御参加いただいている両校長先生には、なかなかこういった場で私見を述べるというのは難しい立場だというのは承知しておりますので、全体を通じて今後の審議に何か必要だなと思うようなことがあれば御助言をいただければと考えているところでございます。学校の実情等々について少し触れていただければと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。

それから、今日も終了時間は8時半厳守ということで進めてまいりたいと思っておりますので、御協力よろしくをお願いいたします。

以上です。

- ◎目黒教育総務課長補佐 ありがとうございます。

続きまして、永井教育長より挨拶を申し上げます。

- ◎永井教育長 皆さん、こんばんは。

本日もお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。適正規模検討委員会も第3回目となりました。本日もどうぞよろしく願いいたします。

前回、前々回の検討委員会で、そもそも角田市はどういう教育を目指しているのか、その議論の前提としてそういう情報も必要だというお話をいただきました。そこで、本日「角田市の教育がめざすもの」という資料を1枚用意いたしましたので、御覧いただきたいと思います。

左上にまちづくりの基本理念がありまして、市民力、地域共生、地域資源フル活用、この3つがございます。そして、それを受けまして、市長と教育委員が総合教育会議を開催いたしまして、教育大綱基本方針というものを策定いたしました。この3つが、言ってみれば角田市の教育が目指す大目標ということになります。1つ目、「夢と志を持ち、自ら考え行動する人づくり」、2つ目、「多様性を尊重し、ともに学び、生きがいを持って生活する人づくり」、そして、3つ目、「ふるさとを知り、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを愛する人づくり」の3つであります。

さらに中段、基本目標7つありますが、これは長期総合計画と一緒につくりました第2期角田市教育振興基本計画に示されている基本目標であります。

以上が、教育委員会として公表している今後10年間で目指す角田市の教育の目標ということになります。大分漠然とした抽象的な表現ですので、参考までに一番下に令和6年度の学校教育の重点、頭文字を取って「FR ESS」というものを記載しておきました。これは私が考えて校長会などで示しているものですが、1、楽しい授業、2、地域の教育力、3、環境整備、4、宇宙教育、5スポーツ、この5点になります。さらにこの下にそれぞれの具体的な取組も掲げておりますが、多岐にわたりますのでここでは詳しく述べません。

以上が角田市の教育が目指す方向ということになります。だから統合が必要だとか、だからどういふ校舎、ハードが必要だという話には直接結びつかないかもしれませんが、少しでも今後の議論の参考になればと思っております。

本日もどうぞよろしく願いいたします。

◎目黒教育総務課長補佐 ありがとうございます。

本日の委員会の開催につきましては、角田市学校適正規模検討委員会設置要綱第6条第2項に、過半数が出席しなければ会議を開くことができないと規定されております。本日、委員19名中18名の委員の方々の出席を得ておりますので、規定を満たしておりますことを御報告いたします。

---

#### 配付資料確認

◎目黒教育総務課長補佐 ここで、配付資料について、お手元の資料から確認させていただきます。

まず、一番左側にあります次第になります。

続きまして、先ほど教育長からのあいさつで使用いたしました「角田市の教育がめざすもの」になります。

そして、一番右側になります。前回の委員会でお配りしましたアンケート速報値の正誤表になります。二枚物でございます。

その下にあります「問3（補足）各地区の回答率について」、一枚物がございます。

続きまして、事前に郵送させていただきました資料になります。

第2回角田市学校適正規模検討委員会会議録になります。

続きまして、③資料1「学校の適正規模・適正配置に関する保護者等アンケート結果集計報告書」になります。

全部で6種類になります。お手元がない方はおられますでしょうか。

---

#### 説 明

◎目黒教育総務課長補佐 それでは、次第3の報告に入ります。

会議の議長につきましては、山内委員長をお願いいたします。

◎山内委員長 よろしくをお願いいたします。

本日は、報告は1件になります。(1)第2回検討委員会会議録の内容確認について、事務局、説明をお願いいたします。

◎目黒教育総務課長補佐 それでは、説明させていただきます。

会議録の内容確認につきましては、第2回目の会議録を皆様へ事前に郵送させていただいておりました。委員の皆様から修正点や御指摘等がございましたらお教えいただき、この場で修正したいと考えております。よろしくをお願いいたします。

---

#### 質 疑

◎山内委員長 ありがとうございます。

事前に会議録をお渡ししてあるということでもございました。何かの御確認いただいた上で修正等あればお願いいたします。いかがでしょうか。特にはございませんかね。

ホームページにアップするまでもう少し時間あるかと思っておりますので、何かお気づきの点あれば、あと事務局に直接お寄せいただければと思います。

では、この件についてはよろしくをお願いいたします。

---

#### 説 明

◎山内委員長 それでは、議事に参ります。

学校の適正規模・適正配置に関する保護者等アンケート、こちらがまとまりましたので、この報告書について説明をお願いいたします。

それでは、事務局、お願いします。

◎大野総務係長 おばんでございます。

それでは、私から御説明申し上げます。

まず、説明に入る前になんですけれども、先ほど目黒からも御説明ありましたとおり、前回配付させていただきました速報値なんですけど、一部資料に誤りがございましたので、訂正させていただきたいということで御用意させていただいております。確定版につきましては、こちらの誤りを正しい形で集計させていただいておりますので、何とぞよろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、③資料1「学校の適正規模・適正配置に関する保護者等アンケート結果集計報告書」につきまして御説明申し上げます。

まずは、表紙を御覧ください。

今回のアンケート調査の概要ということでございます。調査期間につきましては、約1か月間ですね。5月7日から31日までということで、調査対象者1,483世帯ということでございます。そのうち914世帯から御回答いただきまして、回収率につきましては61.63%という結果となりました。

1枚めくっていただきます。お願いいたします。

1ページ目から5ページ目につきましては、御回答いただいた方の属性を問うような質問でございまして、見ていただければ分かるようなものでございますので、詳しい説明は割愛させていただきたいと思っております、3ページの間3に関連しまして補足で御説明させていただきたいと思っております、「間3（補足）各地区の回答率について」ということで、本日お配りさせていただいた一枚物の資料がございまして、そちらを御覧いただければと思います。

こちらにつきましては、今回対象世帯1,483ということでございまして、それは各地区の対象世帯を積み上げ、お示ししたものになります。そのうち何件の世帯から御回答いただいたというのが表の対象世帯の次にありまして、その隣に回答率ということでお示しさせていただいております。その他市外の方を除きまして、枝野地区の方が最も多く71%を超える御回答をいただいております。次いで東根、横倉、藤尾という順番で回答率が高かったというような結果が出ております。

本日は後ほど御意見をたくさんいただくということで、私の説明はちょっと駆け足でやらせていただきたいと思っております。

◎山内委員長 ちょっとよろしいですかね。基本情報に関するところでした。1点追加資料がございました。3ページの資料は各地区の割合が載っておりますが、もともとの世帯数が違いますので、各地区の世帯ごとの提出した割合、こちらを別表で出していただいたということでございました。参考にさせていただければと思います。

それでは、分量が多いので少し区切っていきたいんですが、次、6ページの適正規模についてというところで、そうですね、13ページのメリット・デメリットのところまで、まずここまで説明をお願いいたします。

◎大野総務係長 ありがとうございます。

では、問5番、6ページになります。

人数の多い学校、大規模な学校を「よい」と感じる点はどれですかということで、3つまで複数回答でお願いした設問となります。これは「人間関係の幅が広がる」というのが最も多い回答をいただいております。31.9%、次いで「大勢で様々な活動ができる」とお答えいただいたのが15.9%ということで御回答いただいております。グラフでいいますと、灰色と緑色のところになります。

問5以降なんですが、右のページに地区別の割合を出させていただきまして、それぞれの地区ごとの回答の内訳をお示ししているものになります。この問5につきましては、全体と全ての地区が大体同じような傾向になっているということが見て取れるかなと、そのように思います。

続きまして、8ページになります。

こちらは問6、今度は反対に、人数の多い学校、大規模な学校を「よくない」と感じる点はどれですかということでお聞きしている設問となります。こちらにつきましては、グラフを見ていただきますと、水色と緑のところワン・ツーということでございますが、「問題が生じた場合、教師が気づかないことも生じてしまう」という回答が最も多く33.7%と、次いで「児童・生徒への細かい指導が行き届きにくい」のではないかとというのが31%という結果になっております。こちらにつきましても、9ページの全体、地区別の割合を見ますと、全体の傾向と同じと言えるのかなと、そのように思います。

続きまして、問7でございます。今度は逆に、「人数の少ない学校、小規模の学校を「よい」と感じる点はどれでしょうかとお聞きした設問になります。こちらにつきましては、グラフのちょうど真ん中の青とその次の緑の2つがワン・ツーとなっております、「先生の目が届きやすく、きめ細かな指導がしやすい」ということが最も多かったと、次いで「全員で団結や協力がしやすい」という答えが22.3%だったというところでございます。こちらにつきましても、地区別で見たときも、全体と同じような傾向が見て取れるかなと、そのように思います。

続きまして、問8でございます。今度は、人数の少ない学校を「よくない」と感じる点はどれですかということでお聞きした質問になります。こちらにつきましては、オレンジと緑のところワン・ツーとなっております。「友達関係がいつも同じで、友人間に序列ができる」という回答が最も多く26.1%と、次いで「PTA活動等において、保護者への負担が多い」という回答が次点の24.8%という結果でございます。こちらにつきましても、地区別の割合で見たときに全体と同じような傾向が見て取れるかなと、そのように思います。

続きまして、問9でございます。こちらは小学校におきまして、一つの学年で……

---

## 質 疑

◎山内委員長 ちょっとだけお待ちください。まず、13ページのところで区切りたいと思います。

ここまでのところで何か御質疑等あれば、確認等あればお願いいたします。いかがでしょうか。

大きな学校、小さな学校のそれぞれのよいところ、そうでないところという、いわゆるメリット・デメリットについての質問でございました。大体皆様が想像なさっていたところと大きくは違ったところがないかと思うんですけども、私は、学校の規模というのは大きくても小さくても、大きいところは大きいなりに、小さいところは小さいにりのよさというのがあるんだと思いますね。ですから、そのよさのところだけでいうと、一概にどっちがいいとはなかなか言えないところもあるんだろう。

ただこのアンケートの結果を見ますと、逆によくないところというのがちょっと出てきていますね。例えば大きなところだと、目が行き届かなくなるところがあるのではないかという意見がありましたね。逆に小さなところに行きますと、小さな学校のきめ細やかな指導とかというよさはあるものの、やっぱり集団が小さいと切磋琢磨する機会が少ないので、そのあたりが課題ではないかという、このあたりがやっぱりはっきりと出てきているところではないかとは思うんですね。

まとめると、結局学校というのは、いわゆるどんな教育を行うのだったとしても、大き過ぎてもデメリットがあるし、逆に小さ過ぎても課題があるのだと。やはり適正規模というね、この適性という表現がありますけれども、そのようなことがあるということが確認できたのかなと思ったところでございました。

事務局さんも、ぜひ前回の指摘の中で、結果の報告だけでなく事務局としての若干の分析を加えてほしいとの要望があったと思いますので、説明の中でそういったところをちょっとだけ触れていただけるとありがたいなと思っております。

では、この13ページまでよろしいでしょうか。

---

## 説 明

◎山内委員長 では、今度は14ページからの適正規模の中でも学級数のところ、あるいは学級ごとの人数といったところの質問でございます。21ページのところまで説明をお願いいたします。

◎大野総務係長 続きまして、14ページ、問9になります。小学校におきまして一つの学年で適正な学級数はどの程度だと考えますかということでお聞きしております。一番多い答えが「2～3学級」というのが最も多いと、次いで「4～5学級」というのが次点となっております。こちらにつきましても、地区別の割合を見た場合も、全体と同じような傾向となっております。

次に、16ページになりまして、こちらにつきましても、小学校1学級当たり児童数は何人が適当だと考えますかということで、1つだけに丸をつけていただくというものでございます。全体として一番多いのが「25人程度」というのが最も多く38.4%と、次いで「20人程度」というのが30.1%となっております。これは地区別で見た場合、若干変化というかグラデーションがありまして、横倉、枝野、藤尾、西根というところにつきましても、「20人」と「25人」というのが若干逆転しているというような傾向が見て取れる状況になっております。それ以外は全体の傾向と同じような状況になっています。

次、18ページが中学校ということでございまして、こちらも小学校と同様、一つの学年で適正な学級数はどの程度だと考えますかということでございますが、一番多いのが、小学校と同様になりますが「2～3学級」というのが最も多いということでございますが、次いで「4～5学級」と答える方も小学校よりもかなり多いというのが中学校の特徴なのかなと、そのように思っております。こちらにつきましても、19ページの地区別割合というものを見たときに、全体と同じような傾向が現れていると言えるのかなとそのように思います。

その上で20ページに参りまして、今度は中学校の1学級当たりの生徒数は何人が適当かという問いでございまして、こちらにつきましても「30人程度」とお答えいただく方が最も多いと、40%ございまして、次いで「25人程度」という回答が33.4%となっております。これを地区別で見た場合なんですけど、こちらでも横倉、枝野、東根、北郷においては全体と傾向が若干違っておりまして、「25人」と「30人」が逆転しているという傾向が出ているというところでございます。

---

## 質 疑

◎山内委員長 まず、この21ページのところまで、クラス数とそれから生徒の人数、そこに関する質問でございました。何かここまでのところで御質疑とか何かお気づきのところがあればお願いいたします。よろしいですかね。

その前段で学校のメリット・デメリット、大規模校、小規模校のメリットというのを聞いた上で、そういった教育を実現するためにはどのぐらいの規模が適切ですかという、これは前回の武田委員さんからたしか御指

摘があって、最初に規模を聞くのではなくて、まずどういったところを期待するのかということを知って、それを踏まえてそれを実現するにはどの規模がいいかという、この順番がいいのではないかとということで質問の順番は入れ替わったところでした。いわゆる切磋琢磨しながら力を伸ばしていくにはどのぐらいの人数が必要かとか、どのぐらいのクラスが必要かとか、あるいは目が行き届く教育をするためにはこのぐらいの人数が最低必要だろうとか、そういったところから皆さん、お答えいただいたものと思っております。よろしいでしょうか。

---

#### 説 明

- ◎山内委員長 では、22ページからのところになります。今度は学級数や学級の人数が減ることにより、どのようなことが考えられますかという質問ですね。ちょっとここだけ単独でお願いしますか。問いの13、これについて説明をお願いいたします。
- ◎大野総務係長 問13でございます。学級数や学級の人数が減る影響をどのように考えるかという問いでございます。グラフを見ていただきますと、灰色と黄色のところがほぼ同じで突出しているという状況でございます。て、「集団行動・行事に支障がある」という御回答いただいたのが最も多いと、次いで「多様な考えに触れる機会が少ない」ということが24.8%という回答をいただいております。これは、23ページの地区別割合で見た場合も同じような傾向が見て取れるというところでございます。
- 

#### 質 疑

- ◎山内委員長 よろしいですか。最初のメリット・デメリットの質問、その後の学校の適正規模の質問、それらを併せて、改めてこのたびの統廃合、あるいは少子化が進んでいく中で学校規模が小さくなっていったときどういったことが危惧されますかという、そういったことを改めて再質問した内容でございます。内容については今説明があったとおりでございました。このところについて何かございますか。よろしいでしょうかね。その前段の質問をまた改めて再確認というか、裏づけるような回答結果になっているかと、そんなふうに思っております。
- 

#### 説 明

- ◎山内委員長 では、続きまして、いよいよ統廃合のところに進んでまいります。24ページ、今度は適正配置の統廃合についての説明をお願いいたします。
- ◎大野総務係長 続きまして、問14でございます。小学校において、今後、児童数がさらに減少した場合、市が取るべき方法として最も適切なものはどれになりますかというような問いでございます。一番多い多かったのが「学校を統合し、適正な児童数を確保する」という答えが最も多く53%、次いで「通学区域の一部を見直し、適正な児童数を確保」、すなわち大きな学校の一部の地域を小さい学校のほうに寄せるというような回答をいただいたのが33.4%ということでございます。これを地区別に見たときに、統合やむなしというのが灰色になるんですけども、今回は第3次行動計画のところでも今議論が上がっている横倉、桜、北郷地区だけ見ますと、灰色の部分が50%を切っているというような見方ができるのかなと、そのように思っております。

続きまして、26ページは中学校に関して同じような質問をさせていただいております。すみません、ここでちょっと訂正をお願いしたいんですが、文中「児童数」という言葉が何回も出てくるんですが、申し訳ありません、中学校でしたので全部「生徒数」という言葉になります。大変申し訳ありません。

◎山内委員長 選択肢の中とか出てくる場所ですね。適正な「児童数」というところが「生徒数」となります。

◎大野総務係長 申し訳ありません。一番多かった答えが「学校を統合し、適正な生徒数を確保する」というのが55%という結果でございました。次いで「通学区域の見直し」32.3%という結果になりました。地区別に見た場合も先ほどと同様でございました。横倉、桜、北郷については、灰色のやむなしというところが50%を切っているというところが特徴として現れているなど、そのように思います。

---

#### 質 疑

◎山内委員長 よろしいですか。先ほどの前段の質問で、小学校、中学校それぞれにおいて学級の規模であるとか、学級の生徒数、児童数の適正な人数というのを聞いているわけですがけれども、そのときのものがそのまま反映した形になっておるかと思えます。つまり、やはり小学校の保護者の皆様よりは中学校の皆様のほうが、学級の規模であったり、生徒の人数であったり、そのところでより少し規模の大きな集団での教育というのが必要ではないかとお考えになっていると。どちらかといえば小学校の保護者の方は、それよりは一人一人に目の行き届いた、そういった教育が必要ではないかというところを考えていらっしゃるというところが少し見て取れるのかなと思っているところでございます。

では、この24、26の小学校、中学校それぞれの統合の考え方について、御意見、御質問等あればお願いいたします。よろしいでしょうかね。

---

#### 説 明

◎山内委員長 では、続けてまいります。続きまして、28ページです。今度は改めて適正規模・適正配置を検討する上で特に重点といいますかね、配慮すべき点は何ですかということで、ここも複数回答をいただいております。それでは、ちょっと説明をお願いいたします。

◎大野総務係長 続きまして、問16になります。適正規模・適正配置を検討する上で配慮すべき点という問いでございます。グラフのオレンジと水色のところがワン・ツーとなっております。「児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全」ということが最も多い38.3%、次いで「適正な児童数、生徒数の確保」というのが23.2%という回答となりました。これを29ページで地区別に見た場合、全体と同じような傾向が各地区にも見られるというところでございます。

---

#### 質 疑

◎山内委員長 分かりました。ありがとうございます。

私、15までの回答を見ていて、問16を見たときに、一番人数が多くなるのはこの青いところですね、最初のね。「適正な児童生徒数、学級数の確保」というところの割合が一番多くなるかと思ったんですが、実は回答結果を見ますと、それよりも優先するものとして「児童生徒の通学とその安全」という、ここがやっぱり一番

大切ではないかと答えが出てきたんですね。これは前回の委員会でも少し指摘が出たところでしたね。防災の点も含めまして安全・安心というところ、これはすごく義務教育段階では大事な視点だと思うんですね。これ、中学校と小学校別の数字というのはすぐ出るものですか。すぐには出ませんか。

◎大野総務係長 すみません、手持ちではちょっと持ち合わせていなかったんですが、すぐに加工はできますので、次回にもしできれば。

◎山内委員長 恐らく高校より中学、中学より小学と、校種が下に行くほど、やはり児童生徒の通学（距離・方法・時間）という部分の観点が少し多く出てくるのではないのかなど。それから、これまでの質問の中からは、中学校さんはそれよりも実際の学校で行われる教育の内容、それに対する適正規模というところを多く御期待なさっているのかなというところがちょっと感じて取れたものですから、そこが私とかここにいらっしゃる方の想像ではなくて、実際のデータとしてそういうことが裏づけられるというところがもしあればと思った次第です。

ここの28ページの間16について何か御質問あればお願いいたします。よろしいですかね。

ちょっと私のほうで皆さんがいろいろ考える時間をつくるという意味で、少し話題としてお話ししたいんですけれども、私は今回の学校規模を適正化するという事に併せて、統合という方向で話が始まっていて、それぞれ3つありましたね。何小と何小を統合、こことここを統合・再編して学校を新設するというのが3つ示されたと思うんですけれども、最終的な形としては学校の統合なり再編ということでの提案になるんですが、今回私たちが行おうとしている作業は、私は学区の再編ではないかと思っているんです。

例えばA地区にA小学校があって、B地区にB小学校がある、今ですね。ところが、少子化が進んできて、適正規模を維持するためには一つの学校ではいられなくなって、統合しましょうということですよ。そのときに、つまりA地区の学校とB地区の学校を統合するというのは、A地区の学校とB地区の学校の学区を統合することなんです。学区が統合されると。ですから、学区が統合された上で学校はどこに設けましょうかとなったときに、A地区のA学校を利用する場合もあれば、A学校のほうが規模が大きいからこちらを利用したい、でもこの学校はもう60年たっていてなかなかこのまま利用することが難しい。ですから、例えばB地区のB学校のほうを残しましょうとか、あるいはB地区の今度B学校のほうは、防災上のことで考えると、とてもここにまた新しい学校を残すというのが難しいと。であれば、A学校でもなくB学校でもなくC地区という別の地区を探してみてもどうかというふうにはですね。つまり一つの学区の中にある適正な人数を合わせて統合する学校をまずつくると。そのつくった学校をどこに置くかというのは、私はその次の議論じゃないかと思うんですよ。

ですから、今回のアンケートの中にも出てきたように、例えば今A地区のA学校があって、B地区のB学校があって、その学区を考えると、学区の線引きを動かすことで、学区そのものを統合しなくとも、どちらの学校も存続できる形にできるのではないかというだから意見も出てくるわけですよ。ですから、今回私たちがまず行おうとしているのは、学区の見直しなんだと思います。ですから、中にはB地区のB学校がなくなってしまっただけで地区から学校がなくなるとおっしゃる方もいるんですが、そうではないんです。今度A地区とB地区が合わさって新しい一つの地区ができるんです。その地区の中に統合校という一つの学校が設置されるんであって、決してB地区から学校がなくなるわけではないんですよ。よろしいですか。

ですから、そのところを私たちは大事にしていかないと、恐らく今回統合されるのではないかと考えていらっしゃる比較的規模の今小さい学校さんの保護者なり地域からは、私は当然理解は得られないと思っています。ですから、あくまで今回行おうとしているのは、いわゆる統合ありきとか何とかとそういうことではなくて、まずその地域の学校の適正規模を考えたときに、このエリアの中に学校は一つしか置けませんよとなったときに、その地区の学校をどこに置くかというのは次の話であって、それが結果的にその地区で規模の比較的大きかった学校がそのまま存続になる場合もあれば、場合によってはほかの理由によってBの学校のほうが存続になる場合もあるし、両方とも適地ではないということで改めて適地を探るということも多分出てくるんだと思うんですね。そうやって考えていくべきものなのかなと思うんです。

その中で、私たちが大事にしなければいけないのが、先ほど出ておりました、いわゆる特に小学校区においては、通学における安全・安心、このところが保護者の方が一番考えていらっしゃるということですね。ですから、単純に数合わせで大きい学校に小さい学校吸収してしまえばいいとか、そういうことではないのだというところはやっぱりここで確認しておかなければいけないところかなと思った次第であります。よろしいですかね。では、何もなければ、次に進めてまいります。

---

#### 説 明

◎山内委員長 統廃合のところが進みましたので、続いてずっと行きます、30ページになりますか。よろしいですか。これも前回委員の皆様から御指摘があったところです。今回1次計画、2次計画、3次の構想とあるわけですが、まず3次の構想を話し合う前に実際行った1次計画、2次計画をしっかりと検証しようと。その上で、3次計画に話を反映させましょうというようなことから、既に実施済みのことについて保護者の方から御意見をいただいたところでございます。

では、お願いいたします。

◎大野総務係長 30ページになります。

問17-1でございまして、前回の適正規模の議論の際にはなかった項目で、東根小以降の適正配置の検証が必要だろうということもありまして、設けさせていただいたという項目になります。今回914の御家庭から回答いただいております。そのうち145の御家庭が統廃合を経験されているというまず御回答をいただいております。率にして15.9%ということございまして、以下17-2から17-6につきましては、こちらの統廃合を経験されました145の御家庭の皆様追加の質問をさせていただいているような項目になります。

よろしいでしょうか、32ページに参ってよろしいでしょうか。

◎山内委員長 はい、どうぞ。

◎大野総務係長 32ページになります。問17-2でございまして、お子様がすぐに新しい環境、統合先の学校ということになりますが、慣れましたでしょうかというふうな設問でございます。こちらにつきましては、「そう思う」、「ややそう思う」というのをポジティブな答えと捉えた場合には、67.5%の御世帯においてポジティブな御回答をいただいているという状況でございます。

その下、17-3番でございます。お子様の学習意欲により変化が見られましたかという御質問でございます。「どちらとも言えない」というのが最も多い34.5%という回答ではございましたが、先ほどと同じように「そ

う思う」、「ややそう思う」と比較的ポジティブな回答だけ見させていただくと、4割弱の御家庭においてよい変化があったというような御回答をいただいている状況になります。

33ページに参ります。

17-4でございまして、こちらは行事や部活などにおいてお子様により変化はありましたかというようなことをお聞きしております。こちらも「そう思う」、「ややそう思う」というポジティブな御回答をいただいている方は52.4%というような状況でございました。

その下が17-5、人間関係により影響はございましたかとお聞きしております。こちらにつきましても、「そう思う」、「ややそう思う」とお答えいただいた御家庭が60.1%ということで、6割ぐらいの方がよい影響があったとお答えいただいているという状況でございます。

続いてよろしいですか。

---

## 質 疑

◎山内委員長 まず、ここで1回切りますかね。

17-2から見てまいりたいと思います。まず、お子様はすぐに新しい学校に慣れましたかという、本当にこれは統合前、大変心配したところだと思います。まず素直に、いわゆる肯定的な評価が7割近くあったということ喜びたいと思うわけですが、やっぱりここで大事にしなければいけないのは、「そう思わない」という方が8.3%、「やや思わない」という方が9%、合わせて2割近い方が要は「思わない」と回答しているわけですね。

もう統合になってから大分時間がたちますので、その頃の児童さん、生徒さんはもう既に卒業していると思うわけではあります、そのときにいらっしゃいました教職員の方を中心に、継続的に子ども達をきちっと見守っていただいて適切に対応していただいたものと思っておりますけれども、こういったアンケートなどを取るときには、いわゆるこれは多数決ではありませんので、特にこういった性質のものについては、この少数ではありますけれども、「そう思わない」という方々が出たというところ、やっぱりこのところは私たちがきちっと押さえておく必要があるんだと思いますね。

今回は、自由記述は関連して書けるようにはなっていたんですけど。つまり「そう思わない」と回答している人は具体的にこういうことがあったのでそう思わないかと回答することはできたんですけど。それともこれはどこかに数字だけでしか出てこないんですけど。

◎大野総務係長 評価だけしかなくて、ここにもしあれば書いていただくというような。

◎山内委員長 そうですか。分かりました。最後のところですね。分かりました。そのあたりきちっと読み取っていただければと思います。

それから、17-3、4、5のところはちょっと具体的に、いわゆる今回は統合という方向で学校の数が減る、あるいはクラス数が減る、子ども達が減ると、いわゆるスケール規模が減る方向で今進んでますよね。それによって統合が進むわけですけども、その規模が縮小することが教育の縮小になってはいけませんよ。規模が少なくなったからこれぐらいのことしかできなくなりましたではやっぱりいけないですよ。だから、統合したとしても、結局この17-3、4、5を見たときに、やっぱりよい変化があつてほしいわけですね。統合

になって規模は小さくなったけれども、全体の人数は少なくなったけれども、でも先生方なり、関係者のいろんな創意工夫、地域の支えがあって、今までよりも学習意欲が高くなりましたとかね、今までよりもこういった部活動とかでよい変化が出ましたという、やっぱりそういう部分に反映していかなければいけないものだと思うんですよ。人数が少なくなったんですから仕方がないとかと、そういうことではないんですよ。そんなふうなことを思います。ですから、この17-3、4、5という調査、これはすごく必要な調査だったと思います。

ここでもやはり同じなんです。肯定的な評価が多い反面、やっぱりそうではないと答えている方がそれなりの一定数おられますので、ここも自由記述のところなどを中心に、あるいは当時の教職員の方も既にほかの学校に転勤なさっている方などもいるかもしれませんけれども、可能な範囲でやっぱりこのあたり少し拾っておいていただければと思うんですね。それをこの後も統合等々を進める際に、事前にこういったことがあるということが分かっているならば、何らかの対応ができる部分もあるんだと思うんですね。そのあたりぜひまきまきめ細かく、細やかに御対応をお願いできればと思っていますところでございます。

それでは、この32ページ、33ページのところで何か御意見とかあればお願いいたします。よろしいでしょうか。

---

#### 説 明

◎山内委員長 では、34ページは、今度は例の通学距離のところですね。ここについても質問しております。17-6、7、8と併せてお願いします。

◎大野総務係長 34ページになります。

17-6ということで、こちらにつきましては先ほど統廃合を経験されたと御回答いただきました145の御家庭の皆様に対しましてお聞きした設問でございまして、そのうち93の御家庭におきまして、お子様の通学距離が延びましたと御回答いただきました。率にして64.1%という割合になります。以下、問いの17-7、17-8につきましては、その93の御家庭に対しましてさらに質問させていただいたところになります。

まず、35ページの上段です。

17-7でございまして、すぐに通学、スクールバスでの通学も含まれますが、慣れましたかということでお聞きしております。「そう思う」という回答が最も多いと、次いで「ややそう思う」が32.3%と。すなわちポジティブな御回答を76%いただいたということでございました。一方で、保護者様にもちょっと聞いてみたいということで、通学距離が延びたということで御負担は増えましたかということでお聞きしております。こちらにつきましては、46.2%の御家庭でちょっと負担が増えたよと、ある意味当然かもしれませんけれども、そういう評価をいただいているということでございます。

---

#### 質 疑

◎山内委員長 ありがとうございます。

これは17-7と17-8は、「そう思う」の意味が違うわけですね。17-7のほうの「そう思う」は肯定的な評価なんです。慣れましたか、はい、慣れましたという答えなんです。17-8のほうの「そう思う」は、負

担が増えましたかですから、はい、負担が増えましたというね。ですから、ここは「そう思う」という選択肢にはなっていますが、この意味合いは大分違うのだというところですね。下のほうは否定的な評価ということになるんだと思います。

ここは何度かこの委員会の中でも話題になっているところですが、このあたりいかがでしょうか。スクールバスを含む通学の距離、あるいは時間等々に関するところでございます。どなたか御質問などあればお願いいたします。

途中の質問のところでも、特に小学校あたりのところでは、通学時における安全・安心、このあたりのところが気がかりだと、統廃合の際にはこのあたりのところを特に注視してほしいと、注力してほしいといったところの意見も出ていたところでございます。よろしいでしょうか。

---

#### 説 明

◎山内委員長 では、36ページ自由意見のところをお願いいたします。

◎大野総務係長 最後の36ページになります。

こちらにつきましては、学校・教育委員会・市に対する御意見等をお聞かせくださいということで、自由に意見を求めたというところでございます。257人の方から御回答いただいております。1人で複数の内容を書かれている方もいらっしゃいましたので、実際の件数につきましては352件ということで、回答者数より多い回答となっているところでございます。

主要な旨につきましては見ていただいたとおりということで、御覧になっていただければと思ひまして、当初そのままコメントいただいたものを掲載しようかとも思ったんですが、ちょっと個人を特定できそうなものとかいろいろありまして、このような形で類型化して分類させていただいたということでよろしくお願ひしたいと思ひます。

---

#### 質 疑

◎山内委員長 分かりました。

それでは、先ほども私からも、実はちょっと議長から質問する形があったんですが、その審議の中で代表的な意見として例えば紹介できるようなものがあるときには随時お出しいただくということで、次回以降で結構ですので御準備いただければと思ひます。例えばさっきのスクールバスのところとかね、そう思うとか、負担が増えたと。関連する記述があれば、具体的に負担が増えたというのはどういう負担だったのかというところが紹介できるように御準備をお願いできればと思ひております。

それでは、このアンケート報告書について、全体を通じてということでございます。まず、この場で何か御指摘等あればお願いいたします。あるいはこの後、先ほどお話ししましたとおり、お一人お一人様から御意見を頂戴しますので、その中で触れていただいても結構でございます。先立って、まずこの場でという方、どなたかいらっしゃいますか。はい、どうぞ。

◎武田（暁）委員 おぼんでございます。角田中学校PTAの武田でございます。

確認なんですけれども、先ほど山内先生からも確認があったと思うんですけれども、今日配付していただき

ました資料1の追加ですね。各地区の回答率についてということでお示しを頂戴しておりますけれども、各設問についての、ここは多分あくまで地区別であって、各小学校、各中学校での回答の取りまとめというのは行っているんじゃないでしょうか。

◎山内委員長 事務局、お願いします。

◎齋藤教育次長 御質問ありがとうございます。現在のところ学校ごとの数値は捉えてはいないんですけども、捉えることはできますので、あと、その辺また別の機会に御提示したいと思います。

◎山内委員長 今後の審議によって、必要な部分をまた提供いただくということでよろしいでしょうかね。大きなデータベース化はされていると思いますので、あとはどのような形で帳票として取り出すかということだと思いますので、地区別、学校別、取り出せることは技術的には可能だと思いますのでね。ぜひお願いいたします。

◎齋藤教育次長 次回、提出させていただきます。

◎山内委員長 よろしいですか。

このアンケートの結果、やっぱり私たちこれを大切にしていかなければいけないですね。今後審議を進めていく上で何かちょっと判断に迷ったり困ったときには、いつもここに立ち返るということだと思うんですね。結局、私たちが話していることについて、やっぱり保護者の方々はどのように捉えているかという、私たちここをまず基本にしながら、今後の審議をやっぱり進めていく必要があるんだと思っています。

まず、事務局のほう、集計等々、本当にありがとうございました。大変きめ細かくまとめていただきまして、今後役立つものだと思います。感謝申し上げます。

それでは、議事の1つ目のところになりますが、アンケート結果についての報告については以上とさせていただきます。

---

◎山内委員長 それでは、予告いたしましたところでございますが、その他というところに入りまして、本日は委員の皆様お一人お一人から、御意見を頂戴できればと思っています。残りの時間が40分ございます。委員の方の人数を考えますと、何とかお一人2分ぐらいのところでおまとめいただくとありがたいなと思っています。

先ほどお話ししましたとおり、その場で何か事務局から回答できることあればその場で回答いたします。そうでないものについては、次回宿題とさせていただいて、改めて報告させていただくといったことであります。

それでは、よろしいでしょうか。では、高橋副委員長さんからよろしいですか。座ったままで結構です。

◎高橋副委員長 おばんでございます。

アンケート調査、御説明いただきましてありがとうございました。このアンケート調査を見ますと、前回の私が委員長をやったときと大体同じような御意見でしたね。まず、保護者さんとはとにかく自分の子ども達の登校も下校も含めて一番安全を考えているということ。それから、学校に行って、要するにハード面の学校の安全性といいますか、建物とかそういうふうなことをまず考えている。そして、今度は環境ですね。自分の子ども達をいい環境で勉強させたいというのが3つ目。それから、4つ目にたしか前は学力だったんですけども、今回学力はちょっと出てこなかったようなんですが、そのようなことでやっぱり10年ぐらいたっているか

らかもしれないですけれども、同じようなお考えだなどこんなふうに思いました。

それからあと、この会は傍聴も呼びかけていると思うんですけれども、今まで3回で誰もおいでになっていないようなんですけれども、前は会のたびに10人から20人近くいたんですよ、傍聴する方ね。というのは、金津中学校が角中というふうな案が出ていましたのでね。枝野とか藤尾とかそういうふうな方がかなり多くおいでになっていたというふうな記憶がございました。

あと、これからまたこれに基づいていろいろ審議していきますけれども、皆さんの御意見を十分出していただくようお願いしたいと思います。

以上です。

◎山内委員長 ありがとうございます。

今回、アンケート調査をするに当たって、前回調査との比較検討がしやすいようにということで質問項目をそろえたところがあったと思うんですが、そういったところからしますと、今副委員長さんからお話があったとおりで、前回調査との比較において特に何か特徴的なところなどはあったんでしょうか。

◎齋藤教育次長 今、副委員長さんからお話いただいたように、全体的に見て、前回の調査と同じような傾向はございました。ただ若干違うかなというところも多少ありましたが、例えば24ページ、26ページの適正配置、統廃合のこちらの数値なんですけれども、今回調査では統合やむなしという御意見が一番多くて50%、全体では小中とも超えているんですけれども、前は質問の仕方はちょっと表現が違うところもあったんですが、通学区域の変更の部分が一番前は多かったような状況でありました。その次に多かったのが、今回一番少ない、学校の統合は行わないで、その次が統合やむなしということで、ここは順番が大分変わってきているということで捉えております。

◎山内委員長 ありがとうございます。そのあたりのいわゆるその結果ではなくて、分析の部分ですね。今後の議論の中で必要になる場合が出てきますので、事務局でさらに分析を進めていただければと思っております。

それは、お待たせしました。咲間委員、お願いいたします。

◎咲間委員 咲間です。

このアンケートを見ると、メリットもある、デメリットもある、どちらとも言えるんですけれども、私、横倉地区としては、区長会とか学校PTAともお話があっていろいろ聞いたんですけれども、確かにあと何年後かに人数が減って統合されたらどこに行くんだという話は聞きました。ただ、適正人数というのは、私もいろんな仕事関係で宮城県の郡部とかを回ったことがあるんですけれども、1年から6年生までで40人とかという小さな学校があるんですけれども、結局その地域のじいちゃん、ばあちゃんが、区民の皆さんが応援して何でも学校と一緒にやっているという、それを見ると、統合することが全ていいのかなとは私は思います。小規模でも地区の皆さんが応援してくれればいろんなことができるんじゃないかなとは思います。あんまりしゃべると2分になっちゃうので、これで2分まで来ていますから、一応こんな意見を述べさせていただきました。

◎山内委員長 ありがとうございます。

続けて、目黒委員、お願いいたします。

◎目黒委員 小田の目黒です。

先ほど教育長から、教育が目指すものということで3つのテーマというんですかね、教育の大綱とか基本方

針とありましたけれども、先ほど副委員長が言ったように、学力の向上というのがこの方針の中に全然うたわれていない。どこにもうたわれていないなど。うたわなくても学校運営ということもあるけれどもね。その辺のところ少し、方針の中に宮城県で一番になるとかというんじゃないけれども、ある程度の学力向上を目指す教育方針があっただけじゃないかなという部分があります。

それと、アンケートの結果なんですけれども、ある程度想定された内容、最初に副委員長も言ったけれども、前回と同じだよ。そうしたら、何かこの地区でそういう傾向の人が多んじゃないかなと。もう上から言われたらしょうがねえやと、丸つけておこうとか、三角つけようとか、そういう傾向で自分の意見を出す人が少ないんじゃないかなという形のアンケートの結果で、私個人的には感じました。

以上です。

◎山内委員長 ありがとうございます。

続けて、佐藤委員、お願いいたします。

◎佐藤（孝）委員 枝野の佐藤孝一です。

アンケートの中で、全てこれから検討してもいい材料かなと思います。特に私が感じたのが30ページ以降ですね。既に統合が終わってのデータが、非常に今後我々が検討する材料としていい素材かなと思いますし、この中でやはり「そう思う」といういい評価が7割近くあるんですけれども、やはり「そう思わない」のやっぱり10%未満の、しからばどうしてそう思わないのか。その辺まで突っ込んだ形の意見等々があれば、なおいい検討材料になるのかなと思いました。

というのは、私、枝野で金津中学校に統合した際に、1年早く任意で登校される方が選ぶ1年があったんですね。あと、2年後から全部行くということで手上げ方式を1年やったんですね。そんなふうに記憶しています。それはそれとして過程としていいんですけれども、やはり大人数のところ、金津は少人数ですから、一番私が心配したのは、大人数にのまれるのかなと直感的に感じたんですね。その辺のコミュニケーションをやるということで事前に説明はあったんですけれども、それが今後、今一番心配の一つと。

あとは、もう一点だけですね。スクールバスも金津小学校ですね。今1台で2回、1区から4区まで1回、戻ってきて6区から8区までという形で、前も話したんですけれども、一番最初に行くとき早く学校に着くんですね。そうすると、2回目の方がもうかなり遅くなる。できれば、しからば1回にちょっと時間を調整して、一気に子ども達を乗っけて行って、一気に学校にどんと行ったほうが効率的です。前にも話したんですけれども、2回目に乗るので1回目のバスに変更させてもらったという子どもさんが2人ほどありました。

以上でございます。

◎山内委員長 確かに統合の方向に進んだ場合、その後のケアとして、スクールバスの運用はちょっといろいろ考えてみる必要がありそうですね。ありがとうございます。

続けて、今野委員、お願いいたします。

◎今野委員 私、論点整理のほうからちょっと疑問とありますが、確認したいことがありますので、桜小学校と北郷小学校を統合して北角田中学校ですか、現在の。それから中学校は、旧角田女子校というのが論点整理の候補として載っているんですけれども、いずれも浸水地域になっているというようなことがありまして、難色を示す方もいると思うんですけれども、それぞれの候補地、北角田中学校以外に比較検討すべき場所があるの

か。例えば桜小学校とか北郷小学校が対象になり得るのかどうか。あるいはそれ以外のものもあるのかどうか、そういう比較検討というのは考えるのかどうか。その辺をちょっと教えていただきたいということが1点と。

それから、論点整理の中で中学校の統合なんですけれども、小学校の場合はもう1クラスも維持できないというようなことで、統合する必然性があると思うんですけれども、中学校の場合、頂いた資料を見ますと、令和6年の角田中学校の生徒数よりも2つ合わせて少なくなるからというようなお話だったんですけれども、それが統合に必要なのかどうか、ちょっと私は疑問。というのは北角田中学校、令和10年で130人、これが令和16年でも133人ということで、そんなに減らないで、急いで統合しなくても維持できるんじゃないかというようなこともあるんですけれども、その辺どのように考えたらいいのか。その辺を後で教えていただきたいと思っています。

◎山内委員長 ありがとうございます。

2点目のほうは、まさにこれからの全体会の中でも審議していかなければならない骨子の部分だと思いますね。1点目の部分、今お答えできるところはございますか。事務局のほうから、特に今日の段階ではよろしいですか。

◎齋藤教育次長 御意見ありがとうございます。

桜小、北郷小の選択肢もあり得るのかという御質問なんですけれども、そちらの検討の中で審議をしていただきまして、皆さんの御意見がそういった方向に動けばそういったこともあり得ると思っております。

以上であります。

◎山内委員長 まず、今日の段階ではこういった回答をいただきました。

では、続けて、菊地委員、お願いします。

◎菊地（保）委員 東根の菊地です。

東根は桜小学校と統合しまして、生徒数は少ないんですね。これは別途アンケートを見ますと、ほとんど東根がこのアンケートの大部分を占めているのかなと思っております。確かに東根小学校は回答率が22名ということなので少ないんですが、生徒数が少ないです。しょうがないんですが、これからもだんだん出てくる子ども達が少ないものですから、アンケートを見ると大きい学校に行ってしまうというのがあるので、できればやっぱり統合を早めにやっていただいたほうが私の考えはいいんでないかなと思っております。

以上です。

◎山内委員長 ありがとうございます。

今日、別紙追加資料ということで学校ごとの数字を一部出していただきましたが、今後、議論の推移によって、必要に応じて学校ごとの数値というのはやっぱり必要になってくる場合があるかと思っておりますので、御用意いただければと思いました。

それでは、続きまして、根本委員でしょうか。お願いいたします。

◎根元委員 おばんでございます。

桜の根元なんですけれども、少子化になってだんだんと子ども達が少なくなって、統合というのは必要になるのは見えてはいるんですけれども、桜小学校と東根小学校が令和3年に統合いたしました。それで、統合した結果、今まで地域とのつながり、小学校の運動会とかそういうのでつながりがあったのが、統合したことによっ

てそれがなくなりました。地域としては小学校自体も、地域の人たちと運動会とか何かでつながっていたものがもう統合したのでできなくなりましたということになって、小学校は小学校で独断で運動会をやっている。今までコロナで運動会とかできなかつたんですけども、今年は桜としては地区民運動会というような形で行うとはしております。ただ小学校も一緒にということではなく、生徒たち、地域の人たち、桜だけでやるものですから、地域の小学生とのやり方でやっていくのかなと思うんですけども、そうなると学校での運動会ということになりますので、小学校の先生方の協力というのがどのぐらいいただけるかどうかというものもあるんですけども、運動会としてはやってみて結果をまず見ようというような形ではおります。

やっぱり地域の人たちが子ども達とのつながりというか、子どもさんを持っている人たちは学校に行って運動会とか何かというのはあったんですけども、そういうのが地域でやるのと小学校だけでやるのではやっぱり違うんですね。だから、地域も一緒に含めてやれば、子ども達が地域のあそこ子どもだ、どうのこうのというような形でそういうので盛り上がるということもあるんですけども、保護者だけの運動会というような形になると、今までの地区民でやっていた盛り上がりというか、そういうのはやっぱり学校としては大分盛り上がりなかったとか、もう小学校だけでのやり方とかそういうのがありますので、地域を含めてやったのと、小学校だけの徒競走とかそんなような形だけなので、子ども達としてはその辺、親とか地域の人たちとのつながりというか、そういうのがなくなってどういうふうに感じているか分からないんですけども、大人としては寂しいというような感じはしております。

だから、統合すれば必ずしもよくなるかということではなく、地域とのつながりも考えながら統合していただければと思うんですけども、少なくなったとはいっても、いなくなるということではなければ、ある程度その辺、地域の学校というような感じで地域とつながりを持っていったほうが子ども達にとってはいいんじゃないかなと思うんですけども、東根から桜までバスで来ているとか、そういうのだと、やっぱりその辺のところは大分大変じゃないかなと思っております。

以上です。

◎山内委員長 ありがとうございます。

今日、冒頭、教育長さんからお話があったこの中にも、やっぱり地域共生であるとか、基本目標の中でもそうですし、地域の教育力を活用した重点目標なんていうのが掲げられているところですよ。これをいかに具体的に実践できるかということだと思いますね。今お話を伺って思ったんですけども、やっぱりこれから統合を控えているというよりは実際統合を経験したところの地区の方のこういったお話というのも大変参考になるところだと思いますので、そういったところも含めていろいろこれからも発言いただければと思っております。

続きまして、吉田委員、お願いいたします。

◎吉田委員 おばんでございます。北郷の吉田でございます。よろしく申し上げます。

いろんなアンケートを見ますと、前回のアンケートと今回のアンケート、あまり変わらないというようなことでございますが、これはやっぱり保護者の方は、特にお母さん方は今忙しくてなかなか子どもの送り迎えだけで手いっぱい、あと仕事のほうを考えなくてはいけないとかということで、やっぱり学校側とか行政側をお願いして、いい方向に進めてもらえばいいというような考えなのかなと解釈できるように思うんですが、そ

うということも含めてやっぱり保護者の負担が増えるということ、「そう思わない」という意見と、「そう思う」という意見が結果として出ているのかなと思われま

す。そういうわけで、働くお母さん方が大変忙しいということで、放課後児童クラブというのが管下で4か所あるんですね。それで、放課後やっぱりお母さん方が迎えにすぐ来られなくて、スタッフの方をお願いをして6時ぐらいとか7時ぐらいになる人もいるんだと思うんだけど、そういう頃までお願いして放課後児童クラブで子どもに過ごしてもらっているというのが、逆に今県のほうは増えているということを知っています。児童数からするとほとんどの児童がお願いされているみたいな、60人以上ぐらいになっているというようなことで、ほかの地区は桜と金津かな、あと横倉等あるらしいんですが、ほかの区が30人ぐらいの人数だというようなことも知っていますが、北郷では60人超しているというようなそういう話聞くので、やっぱりお母さん方が仕事が忙しくてなかなか子どものことまでいなくて、遅くに迎えに来て、あと家に連れて行ってという、そういうのが多いのかなと思っています。

あと、この間の子ども会の育成会のお話でお母さん方の話も聞いたんですが、やっぱりなかなか皆さん忙しくて、お母さん同士のコミュニケーションもあんまり取れていない。あと、子ども同士のコミュニケーションも、今はスマホの影響なんかも随分あるんだと思いますが、その辺で子ども同士のコミュニケーション、つながりも私らの時代とは違うような時代の違いもあるんだと思うんだけど、やっぱりコミュニケーションが取れていないというのが、その辺がずっとネックになって、なかなか統合するにしても難しい部分があるのかなというようなことをちょっと感じています。

以上です。

◎山内委員長 ありがとうございます。

それでは、地区代表委員最後になります、黒田委員、お願いいたします。

◎黒田委員 アンケートに関する点と基本構想に関する点と2点、お話しさせていただきますけれども、アンケートに関しては、何と申しますか、令和2年に既に市でも基本構想がもう発表されて、これが角田市全域に知れ渡っている流れの中で、いわゆる今回アンケートを取っているということになるかと思うんですけれども、そういうことを考えますと、第3次を考えたときに必要だから意識調査ということになったんだと思うんですけれども、設問内容に一工夫もう少しあってもよかったのではないかなという感じが私としてはしております。まず、それが一つとですね。

あと、アンケートに関しては、先ほど事務局からの集計結果の報告はされていることに関して、委員長様からコメント若干出されておりますけれども、いわゆるある意味では考察も含めたお話もされておりますけれども、私前回、考察の話を申し上げましたけれども、そういうことが欲しかったんです、私は。若干のコメントを、やはりアンケートを取った集計に対する考察ですね。少数意見であってもこれは大事にすべきではなかろうとかかですね、例えばの話ですよ。そういうことを期待していたんですけれども、大変申し訳ないんですけれども、残念ながらそういうコメントじゃなくて、数字の結果のみの集計報告となっておりますので、しようがないからまずそれぞれ持ち帰って、何かのときにこの数値それ自体を自分なりに使っていくと、活用するというふうなことにしかならないかなと思ってはいたんですけれども。それから、具体的な内容は省略いたします、アンケートのですね。

それから、大きな2つ目に、基本構想に関わる、この前頂いた第3次の資料2ですね。その中でちょっと私気にかかった点があるのでお話し申し上げさせていただきますが、一番最後のページです。この前の資料の第3次行動計画構想に係る論点整理の中の、一番最後のページ、10ページになりますけれども、財政の話は省略させていただきます。国費2分の1とか、市債の問題とか、自己資金の問題などは突っ込めばちょっといろいろと出る話になるので、長くなりますのでそれはやめますけれども、それで、今回この資金の話をするというのは、統合する学校の整備のための財源確保の話だと思っているんですけども、しかし、一番最後、大体私も分かるような気はするんですけども、いわゆる将来経営を見越して、その言葉としては公共・公用施設などの利活用の可能性も含めと、そして考える必要があるんだという言葉があるんですけども、これはちょっとですね、これから国から助成金をいただくような話になっていく、それから市債を受ける、あるいは市の税金を投入していくというときに、将来の公共施設なども考えながらなんだとなると、ちょっと誤解を伴うようなことになりはしないかなと。

◎山内委員長 本委員会が委ねられている内容をちょっと超えている内容の話かもしれないですね。承知いたしました。

それでは、保護者代表委員に移ります。最初、横山委員、お願いいたします。

◎横山委員 おばんでございます。角田小学校の横山です。

大きな話ですけども、考えるべき内容としては、いかに子ども達が楽しく生き生きとできるかというようなことを考えなければならぬと思いますし、今の子ども達、非常に上から抑えつけられると嫌がります。なので、やっぱり子ども達、若い人たちが本当にこれならいいよと思えるようなことをやっていかなければならないし、あわよくば、無理かもしれませんが、今回のこの適正規模の委員会を通して、幾らでも角田ってそういうことに取り組んでいるのであれば角田に移り住みたいとか、そういった前向きなことを考えながらいかないと、この先角田に残る者としては、そういったところまで考えながらやっていければと思います。

以上です。

◎山内委員長 ありがとうございます。

続きまして、菊地委員、お願いいたします。

◎菊地（美）委員 横倉地区の菊地です。お世話になります。

今黒田委員さんがおっしゃっていたことに重複するんですが、前回黒田さんが一番最後に質問した財源確保の件で、委員長が宿題だとおっしゃった内容を事務局から御説明を受けていないので、まずそれが1点と、あと先ほど委員長が言った、統廃合ではなくて地区の編成だという認識でこの会議に出ていいのかというのと、あとアンケートの中に、これはどちらで作ったのか承知していませんが、PTA活動において保護者の負担が多いとか、PTAに加入するそのデメリットという言い方が非常に不愉快です。私たちはPTAの教師会の中では楽しんでやっている者もいらっしゃるんで、それをPTA活動に、これは任意の団体ですのでね。拒否権はあるわけですよ。強制加入ではありませんので、それをPTA活動に入ると保護者の負担が多いと。それに丸をつけなさいと言われてるのは、とっても違和感があります。これをちょっと訂正、今からアンケートを取ったものなので訂正はできないと思うんですが、やっている人間からすると、私たちは楽しんでやっていますので、それを何かデメリットという表現の仕方をされるのはちょっといかがなものかなと思っています。

以上です。

◎山内委員長 それでは、まず1点目のほうは後ほど事務局からいただくとして、2点目の部分ですけれども、考え方はお話しのとおりだと思っています。まず、A地区、B地区があって、その学校のの中に生徒さんがいて児童さんがいて、その全体の人数がかなり少なくなっている中で、適正規模を維持するために統合が必要だというまず結論が一旦出たとします。そうしたときに、適正規模を維持するためにどうするかと次に考えるときには、A地区とB地区の学区のまず見直しというところを考えます。つまり線引きのところを動かすことで対処できるのかできないのかというのがまずあるんだと思います。ただ、中長期的なところで考えたときに、一時的にそれでしのいだとしても、すぐ先にもう統合が目に見えているということであれば、そこは線引きの見直しではなくて地区そのものを統合しましょうと。つまり新たな学区を設けましょうという議論に次に行くのではないかと考えています。その結果、統合校をどこに置きますかというのは先ほどお話ししたとおりです。ですから、順序としてはそういう方向で進んでいくのではないかと考えています。

それから、今回のアンケートの結果の中で、まず学校に対してこういったことを行ってほしい、一定の人数を確保して活発な行事とか部活動を維持したいとかと、そういうのがありましたよね。それに対して必要な規模というのを次に聞いて、それにはこのぐらいの規模が必要だということですから、一応まずこの委員会の中の適正規模というものはある程度分かると。それを維持するために、この地区の中でどうやったら維持できるかというのが次の議論なんだと思います。

1点目については、事務局からお願いします。

◎齋藤教育次長 前回、西根の黒田さんからもお話しいただいた財源確保の関係なんですけれども、学校施設の維持管理、修繕等に係る実際の取組については、市では学校施設個別施設計画というものを立てまして、その中で財源も含めて長期的な計画ということで見通しをつけて対応しているという状況になっています。詳細の資料については、前回、一部要点整理の資料の中にも角田小学校、横倉小学校あたりの一部施設計画が載っていましたけれども、そういった内容で全体をまとめているということで御理解いただきたいと思います。

あと、PTA活動における表現については、大変申し訳なかったんですけども、前回の表現と同じ内容で出してしまっていました。大変申し訳ありません。おわび申し上げます。

◎山内委員長 申し訳ございません。あと残り時間5分となったところでございます。また今日も反省しているんですが、ちょっと議長がしゃべり過ぎなんですよ。本当に議長が話してばかりで時間取ってしまって大変申し訳ございません。

続けて、お願いいたします。佐藤委員、お願いします。

◎佐藤（和）委員 金津小学校の佐藤です。

私、第1次計画と第2次、これは両方とも子どもが関わってまして、金津中学校から角田中学校のほうに1人行き、今、枝野小学校から金津小学校のほうに今通っている子どもがいます。金津中学校と角中の差はやっぱり私的にもかなり大きくは感じました。小規模の金津中学校から大きい学校の角中に行った際、子ども同士の距離感を感じたのと、あとPTAとして金津の時代のPTAと角中時代のPTAとはやっぱり温度差というか、距離というか、ちょっとその辺は個人的に感じました。金津でも本部をやっていましたし、角中でも本部をやりましたが、ちょっと何ていうんですか、距離はやっぱり小さい学校と大きい学校の差なのかなと、私

はもうそれしか考えられなかったのかなと思って、その辺の距離はやっぱり大きい学校に行けばPTAとしての距離は感じる。

枝野小学校から藤尾小学校と一緒に統合して2校になったときに、やっぱり人数的には枝野小学校が六十何名で藤尾さんと一緒になって今現在101名、この辺でもPTAよりは、今度は地域との距離感が、学校と地域の距離がかなり出ます。これは正直な話、子ども会、コロナ禍もありまして子ども会の活動はしていなかったのですが、行政区が、枝野が行政8区あり、藤尾さんは行政区が10区あり、これを枝野は2つに分けて、藤尾さんも2つに分けています。そこの親同士のPTAの距離がもう全然分からない距離になっているんですね。コロナが明けてやっとこれから活動するにしても、今まで子ども会活動していない保護者がいるので、どうやって親同士のコミュニケーションを取るか、これが今ちょっと枝野と藤尾さんとのやっぱり課題になっているのかなと思っています。育成会でもいろいろな活動はしていますけれども、小さかった団体から大きくくくりをされたおかげで、その距離感はやっぱり、そして地域と学校の距離感、枝野があったときに小学校の距離は近かったんですけども、金津小学校になったときにやっぱり距離は縮められない、ちょっと難しいのかなど。この先、100年ぐらいやっていた枝野でも今度新しくなって、それがまた地域と一緒にやれるかというのはちょっと、私これは課題なんじゃないかなと思っています。

以上です。

◎山内委員長 ありがとうございます。

議長さん、時間のところなんですけど、保護者代表委員の残りお三方のところまで進めさせていただいてよろしいですか。（「はい」の声あり）

ちょっと時間になりましたところですが、保護者代表者委員の方の意見を聞くということまで進めさせていただければと思います。大変申し訳ございません。

続きまして、武田委員、お願いいたします。

◎武田（浩）委員 桜小学校の武田です。

統合に関しまして、いずれ考えていくべき小学校に該当しまして、今のところ人数がそれなりに確保できているような状況です。周りの保護者さんからいろいろ話があるんですけども、具体的に何人ぐらいまで減れば統合ということをしっかり考えていかなければならないのかなという話を聞き受けます。統合した場合に、今東根さんと統合しているんですけども、やっぱり統合したことによって地区の活動が制限されてしまうということで、そして今度桜小学校がいずれ北郷小学校などと統合した場合に、今の小学校から場所が移動した場合に今度その地区の過疎化が進んでいくのではないかという、どうしても小学校付近に家を建てる家庭が多いという話を聞きまして、ベッドタウンというんですか。やっぱり小さい子どもは近くの小学校に通わせたいという話をよく耳にするので、そう考えていった場合にどうしても地区全体がどんどん減衰していくような方向に進んでいくのではないかということで、一概に統合と簡単に進めることではないのかなと思うんですけども、この先々いろいろな意見を話し合ってその辺は進めていただければと思います。

以上になります。

◎山内委員長 ありがとうございます。

続きまして、岩間委員、お願いいたします。

◎岩間委員 北郷小学校の岩間です。

アンケート結果を見ても、統廃合ですか、こちらは賛成という意見が多数なところはあったんですけども、本当に今お話しされていたとおり、金津さん、桜さん同様、北郷小学校自体もコロナ禍の影響で地区と子ども会とかの関係性が大分希薄になっておりまして、正直育成会自体をどうしようかという話まで今ちょっととなっております。もう正直、低学年は子ども会活動自体をやったことがない。なので、そういう地区自体の子ども数も大分少ないので、西根さんとかになったらもう1人とかという地区とか、もう子ども会自体存続ありません、もう終わりますという地区もありますし、北郷でもそういう地区がもう二、三件出てきている状態です。なので、今後統廃合になった際に、地区と子どもとの関係性やら、子ども会の在り方ではないですけども、そこまでも含め、PTAも含め、一番最後の11件のところにも何か意見あったように、PTAの見直し・廃止等という意見のところにも15件ある状態です。

なので、この辺のPTAの在り方とかも含めて話し合っていないと、多分今後もっと地区やら学校とのつながりが希薄になっていって、本当にもう学校は勉強するところだけという状態になりかねない。保護者の中では、協力しますという方は少なからずいるとは思いますが、必ず。ただ学校とは関わりたくありませんという保護者が、私の感覚では物すごく増えている。もうPTAは面倒くさいからやりたくありません、実際そういう意見も出ています。なので、PTAの在り方自体も含めて統廃合のことを考えていかないと、保護者と小学校との距離が多分大分空いてしまうような気がして、その辺も含めて進めていかないといけないかなと私自身ちょっと感じておりました。

以上です。

◎山内委員長 ありがとうございます。

それでは、最後になります。武田委員、お願いいたします。

◎武田（曉）委員 大変お世話になっております。角田中学校の武田でございます。

今日は大変私も勉強になったといえますか、委員長の山内先生がおっしゃったように、統廃合、統合・廃校という概念ではなくて、学区の見直しであったり地区の見直しを、その中で適正規模の学校を配置していくという認識にまず立たないと、おらほの学校なくなるという意識が随分ついて回るのではないかなとはとした次第です。この議論を聞いてはっと思出したんですけども、角田の歴史をたどれば昭和3年ですか、旧丸森町館矢間村域内だった小田村が角田町に統合された場合にも多分同じような、おらほ角田に行くんじゃないかとか、いろいろな先人の御苦勞があったと思うんです。さらに、昭和29年の1町6か村の統合になって新角田町が生まれたと。そのときにも大分もしかすると同じような、おらほのまちがなくなるんじゃないかという意識がもしかしたらあったのかなと思いました。いわゆるそういったところも、歴史が物語るとおり我々も意識を新たにして、次の20年、30年先、どのような形で学校の適正規模を考えながらこの会議を進めていかなければならないと感じました。

また、アンケート結果でちょっとショックを受けたんですけども、特に小学校ですね。アンケート結果で、1学年当たりの学級数であったり人数であったり、これを計算してみると、小学校では450名必要なんですね、中学校では270名、現在の生徒数に照らし合わせてみても非常に困難な数字で、この数字が物語るとおり、保護者の皆さんの御要望、これを全てかなえるというのはなかなか難しいとは思いますが、あくまでこ

ういった意識、そしてこの数字というのを踏まえながら、我々次回以降加速度的に進めていかないとまずいのかなと感じました。特にこの検討会議も今年12月ですか、第8回目を迎えて最終答申を出さなければならないというわけですが、かなり論点を絞った形で皆さんとともに議論をしていく必要性を感じた次第でございます。ありがとうございました。

◎山内委員長 ありがとうございました。

時間経過しておりますので、本日の議事については以上とさせていただきます。

事務局のほうにマイクをお返しいたしますので、緒連絡の上、閉会ということでお願いいたします。

---

◎目黒教育総務課長補佐 委員長、大変ありがとうございました。

すみません、事務局からアンケート調査について訂正がございますので、お願いします。

◎大野総務係長 申し訳ありません。時間のない中、手短かに訂正をさせていただきたいと思います。

アンケートの集計結果の22ページでございます。先ほど武田委員さんから御指摘いただきました。大変申し訳ありませんでした。問いの13でございます。この表とグラフの内容とこの書き込んだ言葉が合っていないというか、「集団行動・行事に支障がある」というのはどこにも表の中になくてですね。すみません。ここに入るべき言葉としては、「一人ひとりの個性や特性に応じたきめ細やかで適正な指導が期待できる」というところが入ると、それが最も多い26.2%ということでございまして、次いでも「多様な考えに触れる機会が少ない」というところではなくて、「人間関係の固定化・序列化・破綻が生じた場合、クラス替えができないことが不安である」というところが入るべきところでございます。大変申し訳ありませんでした。

先ほど生徒数とか、そういった修正とかもさっきさせていただいたところがございますので、併せて直させていただきます。次回の委員会に合わせて訂正版をきちんと修正させていただきますましてお送りさせていただきます。大変申し訳ありませんでした。

◎岩間委員 これ、上の文言が間違っているんじゃないかと、この選択の部分が間違っているんじゃないですか。

質問の問いが、学級数や学級の人数が減る影響をどう考えますかで、26%が「一人ひとりの個性や特性に応じたきめ細かな指導が期待できる」っておかしくないですか。

◎大野総務係長 少し紛らわしい選択項目になっていまして、前回もこの選択項目は全く同じなんですけど、ポジティブなのとネガティブなのが混在していまして、ぱっと見分かりづらいんですが、減った場合に両方のことが考えられるということで、どちらもここに入っております。

◎山内委員長 いずれ、そこに書いてあるように、期待できることは期待できる、それから不安であるは不安である、そのことに影響が出ると考えられるということですね。

◎大野総務係長 そのとおりです。

◎山内委員長 だから、回答者がそこをちゃんと理解した上で回答したのかというところが少しちょっと不安なところがある。

◎大野総務係長 そうなんです。ちょっと紛らわしいあれだったんですが、両方のことが考えられるということで、両方とも、はい。

◎山内委員長 いずれ、この段で今話しても深めようのない部分もありますので、次回、改訂版を出す際に改

めてちょっと補足の説明をお願いいたします。

閉会のほうをあと進めていただいて。

---

#### 閉 会

◎目黒教育総務課長補佐 それでは進めさせていただきます。

次回の会議の御説明をさせていただきます。

来月7月31日水曜日7時から、本日より同じこちらの301会議室で行いたいと考えております。

本日様々な御意見を頂戴いたしました。その御意見の中には答えなければいけないことも数多くございましたので、この後、次回の委員会で各担当課に確認させていただきまして御報告させていただきます。

また、忌憚のない意見を頂戴するため、今後、次回ではないかもしれませんが、その次になると思いますが、二、三班にグループを分けて分科会方式で1つ、2つのテーマで議論を深めていただきたいと思いますと考えております。テーマと班分けについては委員長と相談して決めたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、学校適正規模検討委員会を終了させていただきます。

大変ありがとうございました。

午後8時41分 閉 会